

第5B(小)分科会 教職員の専門性に関する課題

提案主題 教職員一人ひとりの資質/能力をつなげ、マネジメント力を高めるための教頭の役割
協議の柱 小規模校において「チーム学校」の実現に向けて、教頭としての役割はどうあればよいか。

提言者 宇佐市立横山小学校 佐々木 健 司

1 質 疑

- (1) Q 座学が難しい子どもに対し行った交換授業とはどのような方式で行ってきたのか。また、効果があったのか？ (滝尾中 佐藤教頭)
- A 交換に入った先生は、遊びを通してつながりのある高学年の指導力のある担任で、兄の担任でもある。支援の必要な学年の教室にサポート役として入っている。管理職はその時間の高学年の授業に入っている(ドミノ式)。定着し成果が出てきている。

2 協 議

- (1) Aグループ 難しい子どもの対応について、各校は学校規模の大小にかかわらず人員を配置を模索している。教頭に関しては事務職員未配置や新教育課程の準備など多忙な中で学校課題への対応の中心になっている。今後は関係機関との連携とともに、地域の力の有効な活用を考えていくことも必要。
- (2) Bグループ チーム意識を持たせるためには、①一人ではなく部会としての提案を行うことで主任を中心に職員の参画意識も高まる。②担当の仕事に見通しをもたせること。「部会・職員会議議題一覧」で可視化し仕事を何からどんな順序ですればよいかわかりやすくなり、落ちもなくなる。③4点セットの作成に関しては、管理職のみではなく各主任が中心となり評価PDCAサイクルをまわすこと。
- (3) Cグループ 人材のパフォーマンスを最大限に発揮させるための主任同士をつなげるのが教頭の役目である。教頭として出過ぎず、お膳立てを行うことが重要である。

3 指導助言

提言について

- ①ドミノ式の交換授業を展開し、各関係機関(医療・児相・SCなど)と連携し、あらゆる手を打ちながらチームとして取り組んでいること。
- ②児童会活動や遊び、給食を通した「児童の活躍の場」を意図的に設定することで、児童を主体的に考え、動かす場面を作ることが子どものやる気につながっている。

今後について

- ①小規模校で教頭はプレーイングマネージャーの役目をしなければならないこともある。
- ②教頭は主任との意思疎通を行い、主任との役割分担を明確にすること。また、打合せ回数を極力減らし教頭本来の業務に時間を当てるべき。
- ③専門スタッフ(人員)等の導入・・・○発達障がい等のある児童生徒への対応 ○事故等問題事案が発生した場合の「記録提出」のためのスタッフの導入も喫緊の課題である。